

学校だより

9月号

2学期

平和の尊さについて考える

校長 岡島 眞寿美

二学期が始まり、子どもたちの明るい声が、学校中に響き渡っています。今年は、平和の祭典オリンピックピックが、パリで行われ、パラリンピックも行われている最中です。しかし、世界各地で、戦争は、まだ、続いています。たくさんの人々の命が失われ、本当に悲しいことです。

七十九年前に、日本の広島と長崎に、原子爆弾が落とされ、今年も平和記念式典が行われました。去る八月三日に當麻文化会館で、戦争を体験された藤野高明さんのお話をお聞きする機会がありました。小中学生も含めて約百人の方が聞きに來られていました。

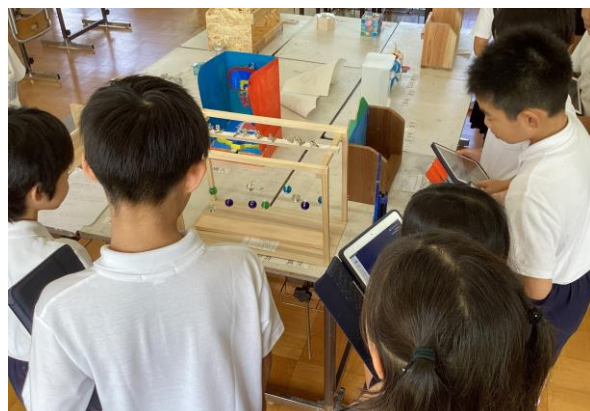
藤野さんは、今年で八十五歳になられます。終戦の翌年に、小川で乾電池のような筒を拾いました。それが、不発弾でした。その不発弾が、爆発し、当時五歳の弟さんは即死。七歳だった藤野さんは視力と両手首を失いました。悲しみと失望の中で、唇と舌で点字を読むことに挑戦されます。藤野さんは、点字を唇で読むと、最初はザラザラとツルツルしかわからなかった点字を、唇の上の何ミリかという感覚部分で際限なくなぞっていくうちに、やがて、いくつかの文字が浮かぶようにわかってきたそうです。文字の獲得は、光の獲得であり、「学校に通う」という次の目標につながりました。二十歳のときに、受験を認められた大阪市立盲学校（当時）に、中学校二年として入学されました。「勉強ができるのは、まるで天国のようだった。」と語っておられました。卒業後は、通信制の大学で学ばれました。努力を積み重ねられ、点字での試験で、大阪市立盲学校の社会科教員になり、約三十年務め、大勢の生徒を送り出されました。藤野さんは、「今の平和はすばらしい。戦争は起こしてはいけない。」と、訴えておられました。八月六日の平和記念式典では、「平和の誓い」で、広島『一人一人が相手の話をよく聞くこと。』『違い』を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。』

子どもたちには、これからの学習の中で、平和の尊さについてしっかりと考え、平和への思いをつないでほしいと思います。

夏休み作品交流会



子どもたちが、夏休み中に制作した作品の交流会を開きました。子どもたちの創造性豊かなすばらしい作品が並びました。互いの作品の素敵なところを伝え合うことができました。



150周年記念事業に向けて 横断幕ができあがりました

當麻小学校は、令和7(2025)年5月17日に、150周年を迎えます。1学期の全校朝の会でも150周年の話をしました。子どもたちもとても楽しみにしています。実行委員の皆様のご協力のもと、できあがった横断幕には、子どもたちの思いが集まったデザインも描かれています。来年から、150周年事業に取り組んでいきます。保護者の皆様や地域の方々のご協力ご支援をよろしくお願いいたします。



ここがふるさと 當麻
～當麻に育つ喜びを語り合う～
そして未来へ



計画委員の子どもたちが、学校の門の前に、横断幕を飾りました。

〒六三九〇二七三 奈良県葛城市染野三二番地
発行者 當麻小学校 校長 岡島 眞寿美
電話 〇七四五―四八二〇五九
FAX 〇七四五―四八七二二四
発行日 令和六年九月二日(月)

第386号